

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区永代1-12-5第七小崎ビル101
施設名	小鳩保育園永代

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音で遊ぼう！～五感で楽しむ音の世界～

〈テーマの設定理由〉

子どもたちが身の回りの様々な「音」に興味を示す姿が見られるため、様々な音の体験を通して感性を育むことを目的とします。自分の身体を使って音を出したり、楽器やモノを使って音を出す、環境によって音の聞こえ方が変化する、など音の多様性を楽しむとともに、協調性やコミュニケーションの力を育みます。

2 活動スケジュール

1月：職員での話し合い、環境の見直しを行う。
2月：0.1歳児の子どもに合わせた環境設定を行う。
19日 26日に保育観察を行う。振り返りとカンファレンスを行う。
3月：0.1歳児の子どもに合わせた環境設定を行う。
5日 19日に保育観察を行う。振り返りとカンファレンスを行う。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ソリッドドラム ドラムセット マラカス 太鼓 ボンゴ スレイベル 音の出る絵本 吸音パネル

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・手で叩いたり、足踏みしたりすることでも音が出ることを楽しめるよう、手遊びや歌を保育者がさりげなく歌う。
- ・子どもの動きや興味に応じた楽器の玩具を保育室にさりげなく置いておき、子ども自身が気付いて遊びを広げる様子を保育者は観察する。
- ・身のまわりではどんな音がするのか、風の音や足音、鳥のさえずりなどにも耳を澄ませて、保育者が言葉にするなどしてはたらきかける。
- ・保育者は保育観察を行い、子どもの気づきを話し合いカンファレンスを行う。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・床や棚に積木が偶然あたって音が出ることに気付いた子がいた。
- ・それを見た他の子が、太鼓を触ったり叩いたりし始めた。
- ・バチを持って叩く子、バチを垂直にして叩く子、ドラムセットのシンバルを触ってみる子など、音のおもしろさに気付いていた。
- ・保育者の歌に合わせて体を揺らしてリズムをとったり、「トントントン」と太鼓を叩いたりして自分なりに表現することを楽しんでいた。
- ・鳥の鳴き声、救急車のサイレン、ヘリコプターの音などにも気づき、生活の中にある様々な音に気付く様子が見られた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・生活やあそびの中で偶然出た音への驚きや発見、繰り返す、音の出る楽しさを感じている様子が見られた。保育者はその姿を見て、「音が出たね」「トントンて言ったね」共感すると、子どもの楽しみが広がっていった。
- ・0歳児や1歳児なりに他の子が音を出していることに気づくと、自分もやってみようとする意欲につながるということがわかった。
- ・楽器や音の出る玩具だけではなく、生活や自然の中にある音にもおもしろさを感じて楽しんでいるということがわかり、その感性を大切にしていきたいと感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区永代1-12-5第七小崎ビル101
施設名	小鳩保育園永代

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然（植物・生き物・天体など）

〈テーマの設定理由〉

戸外遊びの際、近隣の公園にて植物や生き物に触れる機会が多く、興味を持つ姿が見られます。植物や生き物の観察をしたり、植物を使って制作をしている場面もあることから、四季の変化や、生き物の成長、空の変化などを学ぶ機会と考え、テーマを設定しました。自然の中での遊びや活動を通して子どもたちの健康と心身の健やかな発達を促します。

2 活動スケジュール

1月：職員での話し合い、環境の見直しを行う。
2月：2～5歳児の子どもに興味に合わせた環境設定を行う。
26日 27日に保育観察を行う。振り返りとカンファレンスを行う。
3月：2～5歳児の子どもに興味に合わせた環境設定を行う。
17日に保育観察を行う。振り返りとカンファレンスを行う。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・自然物や生き物を園に持ち帰る際に必要な入れ物、キッチンセット、ままごとセット、図鑑、絵本など

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・事前に図鑑を見たり、身のまわりの生き物や植物に関して子どもたちと話し合い、公園にいる生き物に興味をわくようにする。
- ・戸外で集めたものを園に持ち帰ることができるように、自分だけのオリジナル散歩バッグを製作する。保育者は、子どもが集めたものが見えるように、透明の容器を製作コーナーに各種置いておく。
- ・園に持ち帰った自然物や昆虫などの生き物は、あそびに使ったり観察したりできるよう、一人一人に応じる。
- ・発見した自然物を図鑑と照らし合わせて、名前や生態を調べ、友だちや保育者と共有する。
- ・帰りの集まりで、楽しかったことや明日やりたいこと、感想などを共有する。
- ・保育者は保育観察を行い、子どもの気付きを話し合いカンファレンスを行う。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・普段から図鑑をよく見ているA児が植物の図鑑を見ながら、「最近行った公園でこれに似た植物を見つけた」と、保育者に伝える。その言葉に、その日の戸外活動で植物探しを計画した。各々で作った散歩バッグを持参し、探索活動を行った。
 - ・シロツメクサ、ぺんぺん草、椿を発見した。図鑑で見た植物を発見することができたA児は、得意げな表情を見せながら、「これはぺんぺん草だよ」と言いながら、茎の一本一本を少しずつはがしながら、揺する。「ほら、ぺんぺんって音がするんだよ！！」と保育者の耳元へシロツメクサを持って行き、音を聞かせた。
- その様子を見ていたB児も、A児の様子を見ながら、見よう見真似で茎を割り、揺すっていた。が、割り方の加減がうまくいかず、しおれてしまった。保育者はその様子を見ながら、さりげなく側で茎を割く。それを見ながら再挑戦していた。慎重に茎を割り、揺すってみると、思った通りの音が聞こえたのか、表情を明るくさせ、側にいた保育者に「できたよ！！」と音を聞かせていた。



5 振り返り

- ・日常から図鑑をよく見ている子どもたちが公園へ行き、いろいろな植物を手にとって集められるようにお散歩バッグを作った。自分で作った散歩バッグを持って行くと、嬉しい気持ちが増し、植物などの自然に関心が高まっていくことが読み取れた。
- ・見つけたものをよく見たり、振ったり、剥がしてみたりして、自分なりに気づいたことを試すなどし、工夫して遊んでいた。時には保育者が工夫の仕方を示すなどし、子どもの興味が途切れないようにすることも必要だと感じた。
- ・発見したことを友だちや近くにいた保育者に知らせ、帰園後の集まりで共有することで、明日への遊びへの期待がもてることがわかった。一人一人の気付きを話し合うことで、もっと調べたい、もっとやりたいという意欲をもつと考えられる。